

平成27年度授業改善推進プラン

清瀬市立清明小学校第3学年

	学力調査から見た課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くことへの苦手意識をもつ児童が多い。 話す活動は意欲的だが、相手の話を聞く活動は集中できない児童がいる。 既習漢字も含め、漢字の定着が不十分である。 文章の読解力の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 5W1Hを明確にし、子供との対話の中で、出来事や思いを整理する。 話を聞くための大事なことを確認する。 小テストを繰り返し行い、定着を図る。 音読や意味理解を丁寧に言い、場面ごとの出来事や人物の心情について深く考える時間を多く設ける。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 疑問を解決するために資料を見たり調べたり活動することには意欲的に取り組む。 資料から読み取る力やまとめる力が不十分である。 事実と、そこからどんなことがいえるのかという考察を結びつけて考えられる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> どんな点を読み取るのかや、見るのかといった視点を明確に提示し、例を示しながら、学習の仕方を丁寧に指導する。 実際に見たり聞いたりする活動を多く取り入れ、写真や映像などの視覚的な資料も用いて、興味・関心をもたせる。 調べたことをまとめる機会と発表する機会を設け、学習内容をより深めていく。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> かけ算九九で、まだ曖昧な児童がいる。 繰上りのある足し算や繰り下がりのある引き算では、答えを出すのに時間がかかったり、指を使う児童がいる。 口を使って問題を式に直す問題では、話の手順に立式ができない児童が多い。 時刻と時間では、何時間何分前や後の時刻についての概念で苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習で、かけ算九九の暗唱を取り入れるようにする。九九の反復練習をする。 百ます計算を行い、なるべく早く答えが出せるような練習を繰り返す。 問題の数字の部分を口に直しながら、式の意味は変わらないことを意識させる。 日常生活で、何時間後、何分後を問う機会を多くとり入れる。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察についてはとても意欲的であるが、形・色・大きさなど理科的な観点での観察が苦手な児童がいる。 理科特有の用語の使い方が十分に定着できていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察カードの掲示だけでなく、発表の機会を多く取り入れ、同じ動植物を他の人はどうとらえているのか比較しながら違いなど意識するよう声かけする。 重要な用語は、音読の励行や小テストを繰り返し行い、定着を図る。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うことに課題がみられる。 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏することに課題がみられる。 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくることに課題がみられる。 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くことに課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 部分2部合唱を取り入れながら、響きのある声の出し方にも気を付ける学習を多く取り入れる。 音色に着目して楽器を演奏し、奏法を学び、演奏の工夫の仕方を考える学習を多く取り入れる。 音楽の仕組みを生かした音楽をつくる学習を多く取り入れる。 学習指導要領の共通事項である音楽的な要素を手がかりに聴く学習を多く取り入れる。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 新しい技法や道具にチャレンジしようという意欲が高い。 道具の扱い、返却が丁寧にできない児童がみられる。 授業規律に課題のある児童がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを核に、それぞれの表現が生きる題材の設定を行う。 道具の扱いについては危険な使い方につながらないように指導とチェックをする。 個々に課題のある児童については担任と連携をはかりながらみていく。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動の技能に個人差があり、特にマット・跳び箱運動を苦手とする児童が多い。 体力がまだ身に付いていないためか、持久走で走ると始めにとばして、後半まで持たない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 技能が高い児童には、難しい技やお手本の役を与え、苦手な児童には、個別の練習コースを多く設けるようにする。 授業の始めに3分間走を取り入れ、ペース配分を身に付けさせる。鬼ごっこのど走る運動量を増やす。 	